

エールプレート施工要領書

目次

1. 施工にあたって	P1
2. 施工手順 -1	P2
施工手順 -2	P3

1. 施工にあたって

①現場条件

○図面に指示された差し筋を事前に現場に打込み、下記の点を確認して下さい。
不具合が有る場合は、適宜、差し筋の径や長さを変更して下さい。

(標準の差し筋サイズ：D16 L=700)

【確認する点】

- ・岩や硬質層に邪魔されることなく打込むことができるか。
- ・軟弱な路床で、差し筋がグラつくことはないか。

○階段幅プラス1m程度の作業スペースがあれば施工できます。

側壁が先に構築されている場合は、階段幅内で施工できます。

②材料

1段当り

部材	規格・形状	数量	手配
エールプレート	2000*300*t 15	1枚	—
Sアンカーボルト	D10	8本	担当営業による手配
差し筋	D16	5本	施工業者様による準備
結束線		8本	施工業者様による準備

※上記表は基本的なパターンです。

※上記表はエールプレートを設置するための材料で、側壁や小口止め型枠は含まれません。

③工具

工具	作業
スケール	エールプレートの所定位置への設置
水平器	エールプレートの水平垂直の確認
プラスチックハンマー	エールプレート設置の微調整
ハンマー	差し筋の打込み
ハッカー	結束線の結束

※エールプレートの端部等をカットする場合は、エンジンカッターで切断できます。

※現場に応じて、適宜必要な工具をお使いください。

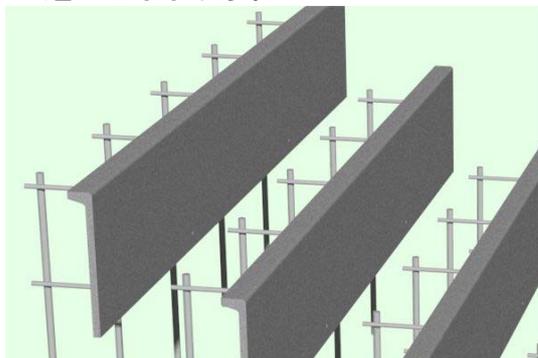
※ヘルメットや保護具を着用して、安全に作業をして下さい。

④仕様

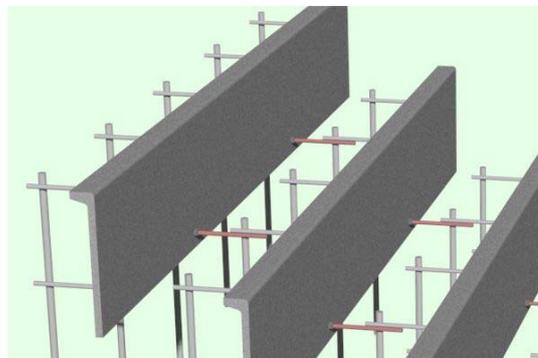
- ・蹴上げ高さ230mm以下なら、エールプレート下部に2ヶ所あいている貫通穴からSアンカーボルトを出し、前段の差し筋と連結することもできます。

(現場ごとに異なりますので、施工図を確認して下さい。)

- ・その場合、②の材料に加えて、Sアンカーボルト2本、M10ナット・ワッシャ4組が追加になります。



▲標準仕様



▲前後連結仕様

2. 施工手順 -1

①施工前・小運搬



- ・側壁を構築する場合は、側壁から構築し、側壁が無い場合は、小口止めのコンパネを設置してからエールプレートを設置した方がスムーズに施工できます。
- ・小運搬する際には、製品を縦にして運んでください。

②エールプレートの設置



- ・水平垂直を確認して、所定の位置に設置して下さい。

(小口止めのコンパネに工夫をすると、スムーズに設置できます。)



③差し筋の打込み



- ・Sアンカーボルト挿入位置付近(挿入穴から10ミリずらす)に差し筋を打込んで下さい。
- ・路盤や地山が軟らかく、差し筋がグラつく場合は、適宜差し筋の径や長さを変更して下さい。
- ・路盤や地山が硬く、標準の長さの差し筋が打込めない場合は、グラつかない長さで、適宜短いものに変更して下さい。

2. 施工手順 -2

④Sアンカーボルト挿入

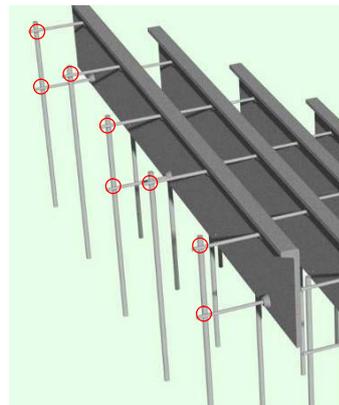


- ・Sアンカーボルトをエールプレート背面のインサートに挿入します。
- ・インサートはM10のメスネジ、SアンカーボルトはM10のオスネジとなっています。

⑤Sアンカーボルトと差し筋の結束（エールプレート設置完了）



- ・Sアンカーボルトと差し筋を結束線で固定します。



- ・1段につき8ヶ所結束することを標準とします。

⑥コンクリート打設



- ・コンクリートの打設は下段から行ってください。
- ・棒バイブがSアンカーボルトや差し筋に触れないように打設して下さい。
- ・打設後、踏み面部を仕上げて完了です。蹴上げ部分は、付着したコンクリートを拭き取る程度で、仕上げの必要はありません。

※エールプレートを延長方向(幅方向)に連続して設置する場合、伸縮目地の検討をお願いします。